

1

1 ア  
2 エ  
3 ウ  
4 イ  
5 動詞の組み合わせ

6 I イ・オ  
II ア

7 特定  
8 ウ

9 A アル  
B ネガ  
C ミユニ

10 a 同様  
b 相次ぐ  
c 辞典

1 a 熱  
b 台風(颱風)  
c 口調

2 A ウ  
B カ  
C エ  
3 ア  
4 神社

5 I エ  
II ア  
III イ  
6 ウ  
7 ア  
8 (記述題)

9 ウ  
10 待っている  
11 エ

1

3 日本語学習者にとってはやさしい動詞を組み合わせて使うことが難しいこと。  
(同意可)

2

8 「私」がタカシにソートセージを買ってあげたこと。  
(同意可)

配点	
1 9・10 2 1・2	各2点×12=24点
1 3 2 8	各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

1

- 1 不適当なものを選ぶことに注意しよう。つまり、「後ろの動詞」を単独で使うことがよくあるものを選べばよいのである。アの「進む」は単独でもよく使われる。「古す」「あぐねる」「そびれる」は複合語として使われることがほとんどである。
- 2 Iは直後に例が挙げられているので「たとえば」が入る。IIは「いずれも」速さに関わる語「↓しかし↓」「コノテーションには差がある」というつながり。IIIはコノテーションの別パターンのもを並べるための「また」が入る。
- 3 直前の段落をまとめる。内容の中心は「動詞を組み合わせて使うことが難しい」である。それが「誰にとつて難しいか」を示す必要はあるだろう。また、直後の段落の内容と照らし合わせれば「やさしい動詞」という共通点もあるので、これも内容に含めておきたい。
- 4 問3との関連が非常に強いので、お互いがヒントとなる問題である。しかし、あくまで「どういう点」が似ているのか、ということが問われているので、どちらにも共通する内容を選ぶ必要がある。そういう意味でウ・エは不適当である。アは「組み合わせ自体」にしてしまっているのが少しずれている。
- 5 ここまでの話は上級の日本語能力における難しい課題の第一のポイント「動詞の組み合わせ」であり、ここがまとめと言える。
- 6 アの「卵」は「鶏卵」に縮小している。イは「お茶」だけではなくて別の飲み物も含んだ意味に拡大されている。オは「筆」限定ではなく、文房具全般に拡大している。ウとエはそのままの意味である。
- 7 「コノテーション」の話は「第三に」というところから始まっている。「このようなく『コノテーション』といいます」の文の「このようなく」が指しているところにくわしい説明が書かれている。
- 8 アは「和語も学び始める」が誤り。「再び、大切に難しい課題になってきます」とあるので、上級以前から学んでいる。イはこの文章を正しく読めれば間違いであることがわかるだろう。「難しい和語」ではなく、「やさしい語」の「使いこなし」が難しいのである。エは「最も難しい」のが「コノテーションである」としか言っていないのがおかしい。
- 9 外来語の知識はもちろん、文脈の意味に合うものを作らなければならない。Aは日本語の「酒」にあたる。Bは「評価しない」ということで「否定的」な意味の「ネガティブ」とする。直前に反対語の「ポジティブ」があるのでセットで覚えておきたい。Cは「意思の疎通」「心の通い合い」を意味する「コミュニケーション」だが、「コミュニケーション」などの間違いもよく見られる。正しく覚えよう。
- 10 a「様」は右側のはねぼうを一画で書くこと。bは字形は難しくもないが、意味とともにこの字を使うことを知っておこう。c「辞」の右側を「幸」にしないように気をつけること。「百科事典」とも区別をしておこう。

2

- 1 a「暑い」「厚い」など、同訓異字が複数あるので注意しよう。物体の温度が高い場合は「熱」を使う。この場合は体が熱を持ってるので「熱」になる。b「台」を「大」などにしないように注意しよう。元々の字は「颱風」と書く。もちろんこちらでも正解である。c「口調」は口に出したときのことばの調子のこと。「口」を「ク」と読むのは普通の音読みであるが、使う熟語が少なめなのでなじみが薄いかもしれない。
- 2 Aは「(病)院に入る」と読み下し、下の字から上の字という順で読む。同じようにウは「山に登る」と読む。Bは上の字が「無」で打ち消しの意味を持つ。Cは上の字が下の字を修飾している。
- 3 アは「私」(タカシが「おねえさん」と呼ぶ人物)であり、タカシを病院に連れて行ったため、医者がタカシのおかあさんだと勘違いしたのである。イは「私」の発言であり、タカシの母親を指している。ウはタカシが自分の母親のがんばりをほこりに思っている発言である。
- 4 文章の後半で「私」がコロを捜しに神社に行っている。そこで姿が見当たらず、「本当に迷って戻れなくなっていたらどうしよう」と言っている。通読時にコロが普段はどこにいるのかをイメージできるように読んでおけばよい。実際にはコロは「私」のマンションに来ていたが、それは予想外のことであったのでマンションは答えではない。
- 5 Iは「ぐったり」も入れられるが、ここで「ぐったり」を使うとIIに入れるものがなくなる。先に決まる方から入れていくのが鉄則である。IIIの「おずおず」は「おそるおそる」とほぼ同じ意味で、ためらいながら物事をするさまである。ここでコロは早朝に管理人に見つからずにマンションを訪れていることから、周りを少し警戒しつつという動きになるだろう。ウの「そそくさ」とは「落ち着かず、せわしなく振る舞うさま」である。「おずおず」も「そそくさ」も意味・用法を知らなければ答えが決めにくいので、知らなかった場合はしつかり頭に入れておこう。
- 6 直前に「寝ていた自分が恥ずかしかったのも手伝って」とあるが、これは「のも手伝って」とあるようにメインの理由ではない。そもそも「私」からしてみればタカシの母親がタカシを一人にしていることに不満があったのである。したがってアでは不十分である。
- 7 直前に話されたタカシの母親の発言内容と、直後の文の内容が根拠になる。イは「経済的に援助」がおかしい。ウは別におかしいわけではないが、傍線部の描写に対してはアよりは劣るだろう。エは「反省している」がこの後の言動とずれている。
- 8 直後の「失礼なことを言ってしまったて……子供がもの欲しそうにしていたのか」から、「私」がタカシに何かを買ってあげたことをイメージしてほしい。そして、「ソーセージのこと」の注釈と結びつける。注釈もしつかり見なければならぬ。「誰が」「何を」「誰に」という要素もそろえよう。ちなみにタカシが言う「黙っててくれた」というのは「万引きしようとしていた」ことである。
- 9 直前の「私」の発言内容と、タカシの母親の表情、さらに直後のタカシの母親の発言内容から考える。それを結びつければウになる。
- 10 「私」が「誰かが待ってる部屋に帰れるなんて、うらやましい」と言っていたこと、マンションでコロが待っていてくれたこと、コロに対して「きつとタカシを待っているからって」と伝えていること、などから「待っている」がキーワードであることをつかもう。
- 11 直前の数行から「私」の前向きな気持ちを表す描写であることがわかる。神社の場面で「朝日の中を」とあったことにも注意する。

以上